



寄稿 2

2025年 日本国際博覧会 (大阪・関西万博)



和歌山県 万博推進担当参事

中瀬 雅夫



1. はじめに

4月13日から、大阪・関西万博が、夢洲（大阪市此花区）において開幕しました。10月13日までの184日間で、想定来場者約2,820万人、経済効果が最大約3.4兆円とも見込まれる国際的ビッグイベントです。

今回の万博のテーマは、「いのち輝く未来社会のデザイン」。世界の多様な価値観を認め合い、新たなつながりや創造で、未来への希望を世界に示す万博となることを目指し、約160か国の海外パビリオンをはじめ、8人のテーマ事業プロデューサーによるシグニチャーパビリオンや日本館など、趣向を凝らした多種多様なパビリオンが出展しています。

提供：2025年日本国際博覧会協会



〈万博会場パース図〉

その一つとして、関西の9府県が合同で「関西パビリオン」を出展、本県も、その中に「和歌山ゾーン」を開設し、総合ディレクターである吉本英樹氏（和歌山市出身、東京大学先端科学技術研究センター特任准教授）の監修のもと、「和歌山百景－霊性の大地－」をテーマに、世界に誇る本県の多様な魅力を国内外に発信しています。



〈関西パビリオン開館式〉

2. 万博を契機とした取組

私は、この大阪・関西万博は、本県にとって、大きく三つの観点から千載一遇のチャンスであると考えております。

(1) 和歌山の魅力発信

一つは、和歌山が誇る世界遺産をはじめ豊富な観光資源や県内の地場産業の魅力を国内外に発信することで、観光誘客やビジネス機会の創出につなげ、万博の経済効果を最大限取り込んでいくということ。

和歌山には、「寛容の精神」をもって、宗教や身分、考え方の違いに関わらず、全てを受け入れ、融合・共存させてきた歴史があり、このことが評価され、2004年（平成16年）に、「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界文化遺産に登録されています。この和歌山が育んできた精神文化は、多様な価値観を尊重しあい、「持続可能な世界」を目指していくという、今回の万博のテーマにも適うものであり、世界に誇れるものではないかと思えます。

そのため、関西パビリオン和歌山ゾーンでは、空間・映像・食の3つのコンテンツで、和歌山の精神文化を展示によって表現しております。

テーマ：和歌山百景 — 霊性の大地 —

コンセプト：“上質”のつまった和歌山

出展意義：和歌山が育んできた精神文化（寛容の精神）は、多様な価値観を尊重し合う「持続可能な世界」を実現する日本的モデルとなり得ると考え、これを展示によって表現

展示構成：空間・映像・食 3つのコンテンツにより構成

集客目標：30万人



和歌山ゾーン Creative Director



〈関西パビリオン和歌山ゾーン〉

まず、空間構成で最大の特徴が高さ4メートルの8体の映像装置「トーテム」。紀伊山地の巨木を彷彿とさせる映像装置「トーテム」は、紀州塗りで仕上げられ、食の体験を供するカウンターと椅子にも紀州材を使用。そのほか空間を構成する様々な要素に、高野

ロパイル・紀州高野組子細工等の伝統工芸や素材を活用し、世界に誇る和歌山の魅力を空間に凝縮しています。



〈和歌山ゾーン全景〉

「トーテム」で流す映像は、ロンドンを拠点に活動している国際的な映像作家Yusuke Murakami氏が担当。約25分の映像で、「寛容の精神」をもって、宗教や身分、考え方の違いに関わらず、全てを受け入れ、融合・共存してきた和歌山の精神文化を、熊野詣にならない「未来」-「過去」-「現在」-「未来・よみがえり」を巡ることで、世界や自分を見つめなおす「よみがえりの旅」をビジュアル体験できます。

カウンターでは、県内の老舗和菓子店や果物農家とコラボレーションした6種のスイーツ等とドリンクのセット「Wakayamaの森と恵みのペアリングセット」を提供。スイーツ等を取める器は、紀州桐箆笥の技法を使った特別な器をご用意しました。カウンターの営業時間は12:30～20:00となっており、価格は税込み6,000円でご予約なしでも対応しております。

また、毎月第3金曜日、土曜日は、特別企画の「お酒の日」となっており、9種類のGI梅酒と日本酒の中から3種選んでもらい、飲み比べができます。こちらは、営業時間が15:00～20:00となっており、3種飲み比べセット税込み1,000円でお楽しみいただけます。

ぜひ和歌山ゾーンへお越しいただき、和歌山百景の魅力を体感いただければ幸いです。

(2) 県民参加型プログラム

2点目は、県が一方的に情報発信するのではなく、県民の皆さんとともに創り上げていく県民参加型の万博を目指していることです。

そのため、和歌山ゾーンでは、週替わりでテーマを設け、県内のお祭りやアーティストのパフォーマンス企画、県内地場産業の歴史や技術に関する展示等、様々な形で県民の皆さんに主体的に万博に関わっていただけるよう取組を進めております。オープニングウィークには、紀州三大祭りのひとつである紀州東照宮の「和歌祭り」のメンバーに参加いただき、お神輿をかつぐパフォーマンスを行うなど、大いに盛り上がったところです。



〈和歌山ゾーン・オープニング〉

また、閉幕に向けてのクロージングウィークでは、利他の心を巨大な折り紙で表現したマンダラを展示することで次代へのメッセージを繋いでいきます。具体的な出展演目とスケジュールについては、県万博特設ウェブサイト（参考欄）でご確認ください。

おかげさまで、関西パビリオン和歌山ゾーンには、連日3,000名近い方々にお越しいただいております。目標来場者数30万人の半数となる15万人を去る6月10日に達成したところです。

県内各地で活躍されている地域の方々が、それぞれの想いを「和歌山百景」として表現し、和歌山ゾーンを皆さんと一体となって創り上げることで、和歌山ゾーンが、訪れる人の予想を超えるような特別なものとなることを目指しております。

また、常設の和歌山ゾーン以外にも、県民参加型の催事イベントを企画しており、5月6日～18日にかけては、関西パビリオン多目的エリアにおいて、振興局単位での物産&観光PRイベントを開催し、オープニングセレモニーには三日月連合長はじめ、吉村大阪府知事ほか関西広域連合の皆さんにもお集りいただき、大いに盛り上げていただいたところです。同様のイベントは、9月10日～15日にも予定されております。

また、4月30日～5月3日にかけて、万博会場内のEXPOメッセにおいて、「ものづくり」と「食」をテーマに、和歌山の地場産業等の歴史や技術を世界に発信するためのイベント「Wow! Wakayama 未来へつなぐ、おどろきの国」を開催し、約46,000の方にご来場いただきました。

10月3日には、EXPOホールにおいて、和歌山の歴史文化等の魅力を世界へ発信するステージイベント「和歌山DAY」を、フィナーレに向け盛大に開催したいと思います。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
和歌山ゾーン (関西パビリオン)	← 4/13(日)～10/13(月) 万博開催期間中184日間 →						
多目的エリア (関西パビリオン)		5/6(火)～5/18(日)				9/10(水)～9/15(月)	
共創チャレンジ (TEAM EXPO パビリオン)		5/3(土)～5/5(月)					
和歌山WEEK (EXPOメッセ)		4/30(水)～5/3(土)					
和歌山DAY (EXPOホール、 EXPOアリーナ)							▲ 10/3(金)

〈出展スケジュール〉

出展日程	振興局等	出展コンセプト
6(火)～7(水)	和歌山市	伝統的な祭をはじめ、和歌山市の魅力を世界に発信
9(金)～10(土)	有田	ARIDA EXPO —万博を契機とした有田への誘客促進とみかん文化の継承—
11(日)～12(月)	西牟婁	五感で感じる ～わかやま南紀エリア～
13(火)～14(水)	田辺市	W世界遺産と梅酒の旅を世界に発信 Kanpai! with umeshu (plum wine)
15(木)～16(金)	海草	「産業」と「食」の力で海南・紀美野を世界に発信!
17(土)～18(日)	那賀	バーチャル体験でKINOKAWAフルーツウェルビーイング IWADE CITY FESTIVAL ～食べて飲んで感じて～
10(水)～11(木)	東牟婁	～熊野の「自然」を体験する～
12(金)～13(土)	日高	「和食の源流は日高にあり」を世界に発信
14(日)～15(月)	伊都	伝統工芸・和の文化を体験

〈関西パビリオン・多目的エリア〉

(3) 和歌山の未来を担う

それから、3点目が、万博を、和歌山の未来を担う児童・生徒や学生のまなびと成長の契機としていただきたいということです。

このため、地球規模の課題に対して世界の英知が結集する万博を体感し、国際意識の向上につなげてもらえるよう、企業や県民の皆さんからのご寄付も活用しながら、約4万人の小中高生を万博会場へ招待する予定です。

また、大学生にも、万博に主体的に参加してもらうため、高等教育共創コンソーシアム和歌山に所属する学生と県振興局が連携して7つの共創チャレンジに取り組みました。

昨年5月19日のキックオフ会議をスタートに、公募により募集した約50名の学生が、それぞれチームを組み、地域でのフィールドワークをふまえた議論を重ね、本年5月3日～5日にかけて万博会場内のTeam Expo パビリオンにおいて、地域の魅力創出や課題解決に向け取り組んだ内容を発表しました。

学生ならではの斬新なアイデアや企画案が提案され、このような若い皆さんが、和歌山の明るい未来を担ってってくれるものと大いに期待するところです。



出展日程	振興局	出展テーマ
5月3日(土)	西牟婁振興局	熊野古道 大辺路への誘客促進
	東牟婁振興局	移住者受け入れ先進地における持続可能な地域づくり
5月4日(日)	海草振興局	国道370号の利用促進
	那賀振興局	紀の川エリアサイクリングによる誘客・周遊促進
5月5日(月)	伊都振興局	高野山麓地域の周遊観光促進
	有田振興局	有田川町清水地域への誘客促進
	日高振興局	「和食の源流は日高にあり」を世界に発信

〈学生連携による万博共創チャレンジ〉

3. 万博レガシー(遺産)に向けて

思い起こせば、3年前、私は観光振興課長として、コロナ禍で大きなダメージを被った観光産業の復興に向けた観光アクションプランの策定に取り組んでおりました。

ちょうど、そのころから、万博に向けた議論も具体化しはじめ、令和7年の大阪・関西万博に向けた3か年で、大きく落ち込んだ国内外からの観光客を回復・更なる飛躍へと転換するためのロードマップを掲げたものです。

商工観光労働部 商工観光労働総務課 [2724]
観光振興課 [2777]
観光交流課 [2789]

観光産業の再生・発展

- 今後、観光産業にとって追い風となるビッグイベントが目白押し
- この期間を『ダイヤモンドイヤー』として位置づけ、コロナ禍からの反転攻勢を図る

ポストコロナを見据えた観光成長戦略 <6.4億円(3補正101億円)>

● 『ダイヤモンドイヤー』に向けた観光戦略 新視

「弘法大師生誕1250年」(R5)

- 弘法大師空海ゆかりの地の連携による共同プロモーション

「世界遺産登録20周年」(R6)

- 世界遺産登録20周年に向けた機運醸成と受入環境整備

「大阪・関西万博」(R7)

- 機運醸成シンポジウム
- DXの推進によるストレスフリーな観光地づくり など

● 「蘇りの地、わかやま」キャンペーン

- 多様な旅のスタイルや嗜好に対応したテーマ別取組による誘客の多角化
- 旅行割引支援策による旅行需要の喚起
- インバウンドの段階的回復に向けたプロモーションの展開

● 「多様な旅のスタイル」の普及・定着

- ワークションなど「新たな旅のスタイル」の普及・定着
- サステナブルツーリズムを活用した企業研修・CSR活動の誘致

〈万博に向けた観光ロードマップ〉

一方で、需要創出のためのプロモーションだけでは、地域の人口減少が加速していく中、働き手の不足など供給サイドの制約から限界があるとの課題認識もあったところです。そのため、高付加価値化(ストーリーの深化)と長期滞在型周遊観光(ロングトレイル)といった持続可能な観光スタイルへの転換を図るとともに、次世代を担う人材育成にも取り組む必要性を感じておりました。

特に、今回の万博のテーマが、世界の多様な価値観を認め合い、未来への希望を世界に示すことを目指したものであることから、万博を契機として、「寛容の精神」に代表される和歌山の精神文化を世界に発信することで、世界や自分を見つめなおす「よみがえりの旅」を体感できる観光地としてストーリーの深化を図れるのではないかと考えたものです。

あわせて、高野山や熊野エリアに集中している外国人観光客に、県内全域を長期滞在し

12 経済情報

